

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5 年計画の 4 年度目)

1. 研究課題

(和文) 漢簡語彙辞典の出版

(英文) Publication of the Dictionary on Han Wooden Slips

2. 研究代表者

(氏名) 富谷 至

3. 研究期間

平成 22年 4 月 から 平成 27 年 3 月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

本研究班の目的、および達成すべき成果は、『漢簡語彙辞典』を編纂し、出版することである。出版社(岩波書店)はすでに決定しており、2013年度内に出すことになっている。

辞書の内容は、居延漢簡、敦煌漢簡の語彙を網羅し、意味、文献史料の用例、簡牘資料の用例をあげる。簡牘、とくに居延漢簡、敦煌漢簡の研究において、第一線で活躍する研究者が集まり、人文研の伝統的な会読の方法をもってすすめた成果として、この漢簡辞典は、斯界に計り知れない貢献をすること間違いない。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

毎回研究班をおこない、収録語彙は6500項目に達した。また研究班開催日の午後12時45分から2時まで、班員の有志からなるワーキンググループで項目の整理、追加などをすすめた。辞書出版の草稿は、2014年3月で一応、完成し、2014年度内出版に向けて進んでいる。

6. 研究成果の概要 (400字程度)

『漢簡語彙辞典』と『漢簡語彙考証』二冊を研究成果として出版する。

辞書は項目数6500、総ページは700頁、『漢簡語彙考証』は総頁400頁となる予定。

7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など)

本研究班の唯一と言って良い目的は、辞書の出版であり、その完成を目指し全力を尽くしているため、シンポジウム等は辞書完成まで行わない方針であったが、2014年3月17日に京都大学人文科学研究所東京漢籍セミナーで「木簡と中国古代」というテーマで、一般に向けての公開講座を開いた。

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生		外国人	大学院生	
学内（法人内）	3	6	3	1	240	120	40
国立大学							
公立大学		1			40		
私立大学	7	6		1	240	40	
大学共同利用機関法人							
独立行政法人等公的研究機関							
民間機関							
外国機関							
その他	2	2			80		
計	12	15	3	2	600	160	40

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例) ・ 1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	10	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(2)	(3)

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割		
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名